

# MMANAの起動と シミュレーション

MMANAは直線のワイヤーの座標を指定しながら組み合わせることでアンテナをモデリングしていきます。初めからいきなりアンテナ・モデルを作るのは大変なので、まずMMANAに用意されているアンテナ・モデルをサンプルとして展開して使い方を見ていきましょう。そして、簡単なシミュレーションを行ってみましょう。

## 3-1 MMANAの起動と サンプル・アンテナ・モデルの読み込み

図3-1のようにMMANAフォルダのMMANAアプリケーションをダブルクリックしてMMANAを起動します。すると図3-2に示すような初期画面が現れます。

この画面でアンテナを構成するワイヤー(エレメント)情報を入力していきますが、最初は、MMANAにあらかじめ用意されているアンテナ・モデルの中から一つを読み込んでみましょう。図3-3のように、メニューの[ファイル(F)]をクリックし、[開く(O)]を選択します。



図3-1 MMANA フォルダ



図3-2 初期画面

図3-4に示すように、[アンテナファイルを開く]というウィンドウが出るので、ANTフォルダをクリックします。

表示されているファイルの中からDP20.MAAと名づけられた14MHzダイポールのモデルを選択します(図3-5)。DP20.MAAを選択し、「開く」ボタンを押します。

先ほどまで空欄だったアンテナ定義画面に、図4-6のようにデータが入力されます。Name欄には水平DP20m、Freqには14.050MHz、ワイヤー・データが1本セットされました。X1, Y1, Z1, X2, Y2, Z2はワイヤーの両端の座標、Rはワイヤー線半径を示しています。この表に座標をキーボードから直接入力することもできますし、後で説明するようにグラフィカル・ユーザ・インターフェースを用いてワイヤーの長さや座標を設定することもできます。



図3-3 [ファイル]→[開く]で、アンテナ・モデルの読み込み



図3-4 アンテナ・モデル・ファイルの選択



図3-5 14MHzのダイポール・モデル DP20.MAAを選択

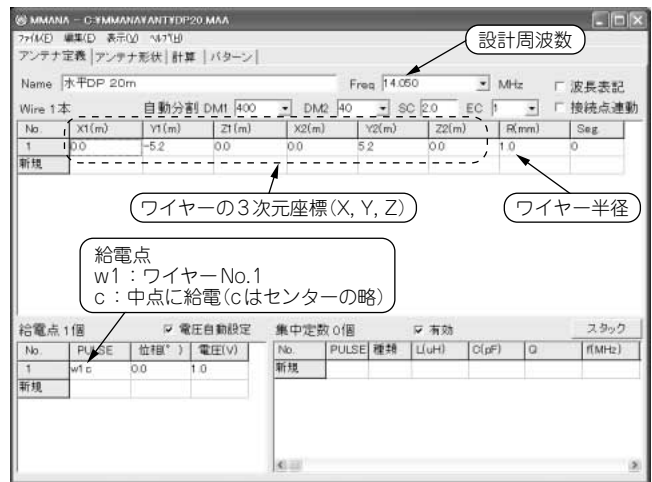


図3-6 14MHzダイポール・モデルのアンテナ定義画面